

もの言う牧師のエッセー 第192話

「新茶」

アメリカで残念なことのひとつが美味しいお茶が少ないことだ。いや別にないわけではない。“バカ高い”ので当方の如き貧乏牧師には高額の茶なのである。そんなわけでお茶に目がない我が妻なんぞは日本にいる両親から送ってもらった僅かな京都の宇治茶を冷凍庫で保存しチビチビ飲んだりしている。などとフェイスブックでブツブツ言っていたら、何と静岡在住の方が新茶をドッサリ送って下さった！素晴らしい香り、なんと芳醇な味であろうか！さすが茶の栽培面積も生産量も消費量も全国一の静岡の新茶である。

茶にはビタミンCや渋み成分のカテキンが含まれ、血中コレステロールの低下、体脂肪低下、がん予防など効用があるとされる。静岡県が健康寿命全国一であることは周知の事実だ。お茶どころの島田市では市内の小中学校に給茶機を設置し、風邪予防など健康管理を図っているほど。だが、実は茶の消費量は年々落ち込み廃業する農家が少なくない。しかも一番茶や手摘みなど高級なものほど売れ行きが悪くなり、資材や燃料費の高騰も彼らを追い詰めているという誠に残念な話を聞いて、聖書に幾度も登場する「初物」を思い出した。

実は聖書には最初に収穫した物に関する記述が多い。“初なるのイチジク”や“初穂”、“初物の麦粉”などなど。それは、

「あなたの財産とすべての収穫の初物で、主をあがめよ。」箴言3章9節、

とあるように、豊かに収穫させて下さった神への感謝の気持ちとして捧げるべき最上の物だからだ。だが、これにはもっと重大な意味がある。実のところ初物は、全ての最初に存在した神であるキリストを表すからである。神は、人類を罪による滅びから救うために“初物”として御子キリストを我らに捧げてくださった。したがって我らは熱心に神に感謝を捧げるべきなのだが、古代イスラエル人は失敗した。最上の初物を捧げることを惜しみ、二級品や余り物で誤魔化したことが聖書の随所で記されている。

“神に何かを与える”というのは宗教ではよくあることだ。だがゴスペル（福音）は、「神が人類に最高の物（キリスト）を与えた」のであり、全く宗教と逆なのである。神を信じる人は少なくない。しかし、神が下さった最高の物に敬意を示し、その印として自分の持つ最高の物を神に捧げるのが真の信仰者である。いつの時代も最高の道を行くのは険しい。 2015-7-22

